講義名	観光地理学			授業形態	
担当教員	山川　拓也	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 ３時限		
		単位数	2	履修開始年次	１年生	ナンバリング・コード	TOR182

主題と概要

観光地理学は比較的まだ新しい学術分野であり、地域における観光関連産業の発達、観光地化にともなう生活や文化の変容、観光活動が地域に与える影響など、「観光と地域の関わり」について様々な側面から研究されているが、その本質的な目的は「観光地の地域性を明らかにすること」にある。

本科目では、学術分野としての観光地理学の本質性に寄り添いつつ、観光ビジネスの就業現場における知識活用を意識した授業を展開する。国内外における代表的な観光資源の特色ならびに観光地の地域性に関する基本的な理解と知識を得ることを目的に、その入口として具体的には、ツアー商品等にて取り上げられることも多い「世界遺産」、本学が位置する兵庫県や近隣の大阪府の「地域観光資源」、地域に根ざした価値をベースとする「無形文化遺産」などについて学んでいく。

到達目標

本科目の到達目標を以下に示す。

・国内外の代表的な世界遺産について学び、世界遺産検定３級相当の知識を習得する。

・世界遺産、近隣の地域観光資源、無形文化遺産に関する学習を通して、代表的な観光資源の特色と観光地の地域性に関する基本的な理解と知識を得る。

提出課題

・毎回の授業終了後、期限内に提出を求める「理解度確認（小テスト）」（Campus-Xsで実施予定）

・第15回の授業に関する記述式課題（詳細については授業中に説明する）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

「理解度確認（小テスト）」に関しては、Campus-Xsでの課題提出時にフィードバックを開示する。

評価の基準

下記による総合評価とする。

①授業後の「理解度確認（小テスト）」への取り組み：１５％
②第15回の授業に関する記述式課題：１０％
③期末試験（マークシート方式・５０問）：７５％

＊毎回の出席確認は厳格に実施する。
＊①・②の提出がない場合、得点は０（ゼロ）点となり、成績評価に影響を及ぼす。
＊累積の欠席回数が５回以上（５回を含む）になった場合、評価を受ける資格がなくなる。（失格/Ｅ）
＊遅刻・早退（時間の長短を問わない）は、１回あたり０．５回の欠席として算入する。
＊スマホ等の電子機器類の無許可かつ私的な使用、私語や睡眠の継続、教員の指示や指導に従わない等は態度不良・授業妨害と判断し、評価に重大影響を及ぼす。

履修にあたっての注意・助言他

観光地理や観光資源に関する知識は旅行業を目指す人だけに必要なものではありません。旅行業界以外でも航空や宿泊といった観光関連業界、他の業界においても、顧客との話題作りやコミュニケーションに役立つ教養となります。そして、仕事だけでなくプライベートでも、それらの知識・教養を身に付けることは、自身の旅行・観光経験を豊かで幅広いものにしてくれます。それぞれの立場で意義を見い出し、目的や目標を持ち、楽しみながら学んでほしいと思います。

教科書

.使用しない.				

参考図書

.きほんを学ぶ世界遺産100 世界遺産検定3級公式テキスト<第5版>.	世界遺産検定事務局	マイナビ出版	1980	9784839988852
.世界遺産検定公式過去問題集3・4級<2026年度版>.	世界遺産検定事務局	マイナビ出版	1485	9784839990824
.美しくて奥が深い世界遺産.	世界遺産検定事務局	マイナビ出版	1980	9784839987770

その他

プリント資料：毎回の授業時に講義レジュメを配布し、パワーポイントを用いて授業を実施する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）		ウ：ディスカッション、ディベート
	エ：グループワーク		オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）				

備考	・科目の進捗状況等によって講義の内容や順番を変更する場合があり、その際には事前に告知する。 ・第5回目の授業後に「授業改善アンケート」／第15回目の授業内で「学びの振り返りアンケート」を実施する。

授業計画

⑴ ガイダンス（科目ならびに授業の概要説明）、観光地理学の視点でみる「観光資源と地域資源との関係」

予習内容：シラバスを通読し、授業内容の大枠を把握して講義に臨む。（60分）
復習内容：授業内容の理解を確実なものにし、授業当日に指定した課題に取り組む。（120分）

⑵ 観光資源・地域資源としての「世界遺産」（概要）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑶ 観光資源としての「自然資源」（日本の世界遺産－自然遺産）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑷ 観光資源としての「自然資源」（海外の世界遺産－自然遺産）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑸ 観光資源としての「人文資源」（日本の世界遺産－文化遺産①）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑹ 観光資源としての「人文資源」（日本の世界遺産－文化遺産②）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑺ 観光資源としての「人文資源」（ヨーロッパの主要な世界遺産－文化遺産①）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑻ 観光資源としての「人文資源」（ヨーロッパの主要な世界遺産－文化遺産②）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑼ 観光資源としての「人文資源」（その他の海外の主要な世界遺産－文化遺産①）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑽ 観光資源としての「人文資源」（その他の海外の主要な世界遺産－文化遺産②）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑾ 全国観光資源台帳にみる「神戸市内・兵庫県内の観光資源」

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⑿ 全国観光資源台帳にみる「大阪市内・大阪府内の観光資源」

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⒀ 観光資源・地域資源としての「無形文化遺産」（概要）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⒁ 観光資源・地域資源としての『日本遺産』（概要）

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：理解度確認（小テスト）と動画視聴に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（150分）

⒂ 観光資源と観光まちづくり・観光マーケティングの関係（まとめにかえて）／学びの振り返り

予習内容：主題テーマについて、自分なりに予め情報を収集し、大枠を把握して講義に臨む。（90分）
復習内容：指定する特別課題に取り組み、授業内容の理解を確実なものにする。（210分）

****
本科目の授業期間中に実施される「第66回 世界遺産検定」（公開会場試験：2026年12月13日、CBT試験：2026年11月29日～12月13日）の合格者に対しては、
合格級に基づく評価（３級以上：マルＡ）を行い、科目の単位を認定する。（諸条件を含む詳細については授業内で周知する）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

科目の目標に到達することは、観光関連産業や関係団体等での就業に際し最低限必要となる観光地理および観光資源に関する知識を修得することであり、本学ならびに学部・学科が定めるDP（卒業認定・学位授与の方針）と関連する。

・観光地の地域性を特徴づける観光資源に関する知識を蓄積することは、観光地理学の導入に適しており、学部共通DPに貢献する。

・観光地理ならびに観光資源に関する事柄は、観光業界において顧客の課題解決や新たな価値を自ら作り出す想像力と提案力を身につけるための必要基礎知識であり、目標到達により学科共通DPに貢献する。

・本科目で習得する知識類は、顧客とのコミュニケーションを円滑に行う上での教養として役立つとともに、観光関連産業や観光団体での就業において必須となることから、目標到達によりコースDPに貢献する。

・観光マーケティングや観光マネジメントを実践する上で、本科目で習得する事柄は前提的な必須知識となることから、目標到達によりコースDPに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

・授業後課題として実施する「理解度確認（小テスト）」への取り組みにおいて、LMS（Campus-Xs）を活用する。

・質問については、口頭／メール／マークシート（出席確認用）への記入等の方法により、随時受け付ける。

・授業では、動画等の視聴覚教材を活用することがある。

実務経験の有無及び活用

「実務経験あり」
旅行業および旅行サービス手配業の実務経験と総合旅行業務取扱管理者（国家資格）の知識を活用しながら、観光地理に関する知識の教授に努める。